

関連する大阪府の行政計画 ＜概要＞

令和6年7月1日

第3回住生活審議会 資料

大阪スマートシティ戦略 ver.2.0 【概要】

- 大阪府及び大阪市では、「豊かで利便性の高い都市生活」を未来像とする副首都の実現と、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする大阪・関西万博を成功に導くことなどを背景に、「住民のQoL向上」を最大目標に掲げた、『スマートシティ戦略ver.1.0』を2020年3月に策定。
- 今回、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う新しい生活様式や国のデジタル政策の強化等、同戦略策定後におけるスマートシティを取り巻く環境の変化を踏まえ、これまで進めてきた取組みを土台に、大阪・関西万博に向け、イノベーションを加速させていくため、「大阪スマートシティ戦略ver.2.0」を策定。

『大阪スマートシティ戦略 ver.1.0』（2020年3月）

スマートシティを取り巻く環境の変化

- ▶ 新型コロナウイルスの課題とデジタル改革の動向
- ▶ 大阪のスマートシティ第2ステージに向けた優位性と機会

- ▶ 世界のデジタル化に向けた潮流
- ▶ デジタル技術の進展と実装
- ▶ デジタル化による SDGs 達成への貢献

基本理念

『大阪スマートシティ戦略 ver.2.0』（2022年3月）

戦略ver.1.0の理念

- 住民が実感できるかたちで、「住民の生活の質（QoL）の向上」をめざすことが主目的
- 「技術実験」に留まらず、「社会実装」のための取組を蓄積
- 公民連携による「民間との協業」が大前提*

* 戦略ver.2.0では「公民共同エコシステムの構築」にリニューアル

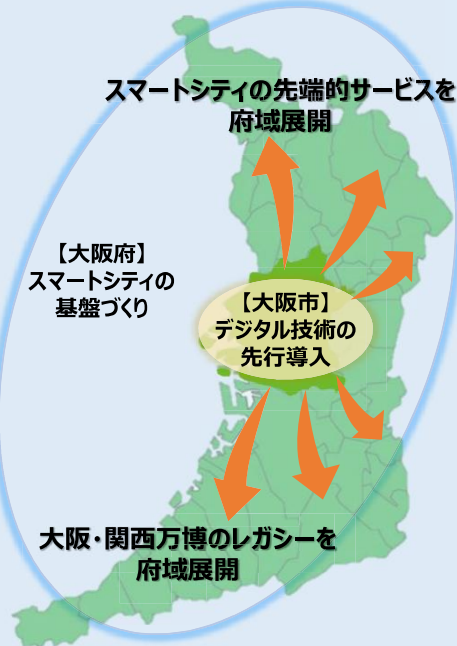


新たに追加する理念

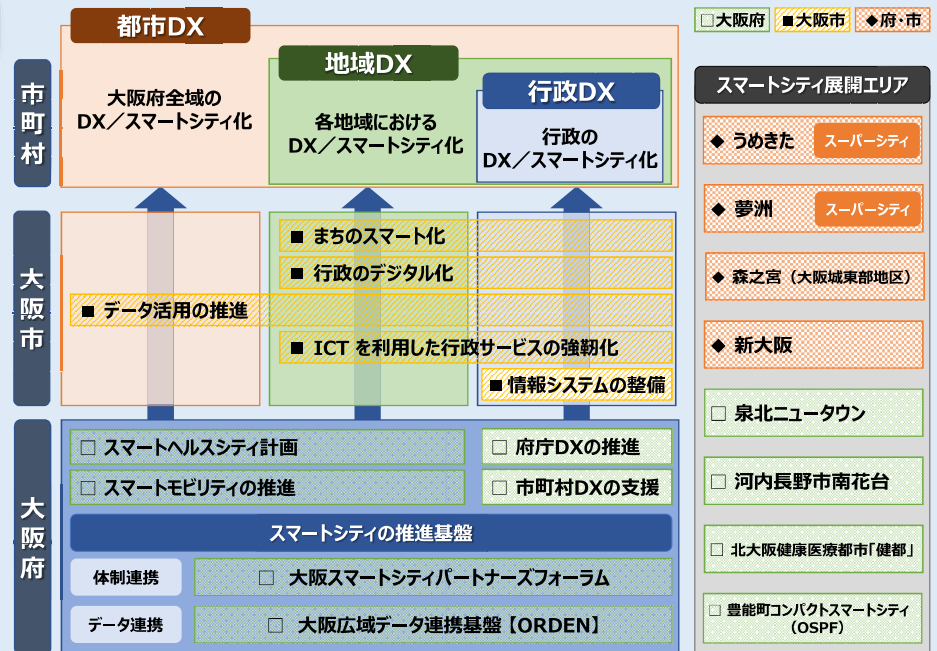
- 新型コロナ感染症に伴う生活様式の変化
→コロナ禍を踏まえた デジタル化による「都市免疫力の強化」
- 国による強力なデジタル改革の推進
→デジタル原則を踏まえた「国のデジタル政策を先導する取組み」
- 社会課題・地域課題の解決がビジネスマーケットとして急速に拡大
→「公民共同エコシステムの構築」

役割

- 大阪府はパートナーズフォーラムやデータ連携基盤などのインフラ構築と、市町村DX支援などにより、府域のDXを推進。
- 大阪市は大阪府と連携した先導役として、府内市町村の行政DX推進をリード。



取組体系



大阪のまちづくりグランドデザインの概要

ポストコロナを見据え、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、さらに成長・発展していくため、大阪都市圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪のめざすべき都市像やまちづくりの方向性、その推進の取組等を示す。

1. 大阪都市圏からみた特徴・役割

- ◆西日本国土軸及び太平洋新国土軸上に位置し、西日本経済の中心、世界のゲートウェイの役割とともに、今後、世界最大級のスーパー・メガリージョンの西の核としての機能を担う
- ◆交通ネットワークを中心に都市機能が集積した市街地が連担し、コンパクトな府域を形成している
- ◆近隣府県の主要な都市と一体となって、広域的な経済交流圏を形成している
- ◆都市に近接した豊かな自然や歴史・文化資源等の多様な地域資源が集積、アクセスが良い
- ◆人口動向や社会情勢の変化、技術革新の見込み等に的確に対応しつつ、万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、さらに成長・発展していくためのまちづくりを進める必要がある

2. めざすべき都市像

(1) まちづくりの目標 **未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり**

【将来像】

- ①魅力的な国際都市として成長する大阪 「イノベティブな大阪」
- ②健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせる大阪 「ウェルビーイングな大阪」
- ③未来へつなげる安全・安心な大阪 「サステナブルな大阪」



【まちづくり推進の視点】「多様性の確保」、「共創」、「資源の活用」

(2) 大阪を取り巻く都市構造

◆府域の都市軸

・交通ネットワークを中心に多様な都市機能が集積し、都市軸を形成

・都心部を貫く東西・南北都市軸や、放射方向に広がる8つの都市軸及び中央環状都市軸を位置づけ



◆府域のゾーニング

土地利用や人口・都市機能の集積状況等を踏まえ、6つのゾーニングを設定

大阪都心部
都心部周辺
郊外部
ベイエリア
河川空間
周辺山系



(3) めざすべき都市構造

◆広域レベル

広域的な都市構造を活かした都市圏の形成

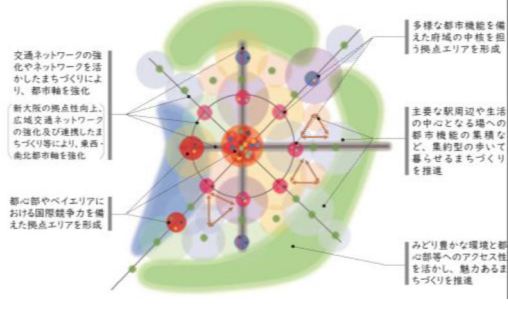
国土軸や環状軸、空港・港湾・新幹線等の広域交通インフラなど、広域的な都市構造を活かし、スーパー・メガリージョンの西の核、世界のゲートウェイに相応しい都市圏を形成



◆府域レベル

マルチハブ&ネットワーク型都市構造の形成

都心部やベイエリアにおける国際競争力を備えた拠点エリアの形成とともに、放射・環状の都市軸上に多様な都市機能を備えた特色ある拠点エリアや魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する都市構造をめざす



3. まちづくりの戦略と取組の方向性

広域的な視点から取り組むべき5つのまちづくりの戦略とその取組の方向性を示し、民間の活力を最大限に引き出しながら、具体的な取組を多様な主体が一体となって進める。

戦略1

成長・発展をけん引する拠点エリアを形成

1) 世界で存在感を発揮する拠点エリア

都心部やベイエリアにおいて、国際競争力を備えた拠点エリアを形成

【新大阪・大阪エリア、「大阪城・周辺エリア」、「なんば・天王寺・あべのエリア」、「御堂筋・周辺エリア」、「中之島・周辺エリア」、「夢洲・咲洲エリア」、「堺都心周辺エリア」、「関西りんくう周辺エリア」計8エリア

2) 大阪の中核を担う拠点エリア

都心部周辺や郊外部において、多様な都市機能を備えた拠点エリアを形成

【北部大阪 中核エリア、「東部大阪 中核エリア」、「南部大阪 中核エリア」、「北阪神都市軸 活性化エリア」、「京阪都市軸北 活性化エリア」、「京阪都市軸南 活性化エリア」、「南阪奈(南河内)都市軸 活性化エリア」、「京阪都市軸 郊外拠点エリア」、「大阪高野都市軸 郊外拠点エリア」、「阪和都市軸 郊外拠点エリア」計10エリア

3) 経済成長を促す産業拠点・集積エリア

ものづくり産業や環境・新エネ産業、健康・医療関連産業など、大阪の成長・発展をけん引する産業拠点エリアの形成や、幹線道路沿道やベイエリア等での新たな産業用地等の創出 など

戦略2

大阪ならではの魅力を活かし、暮らしやすさNo.1都市を実現

1) 駅周辺での拠点形成と魅力ある生活圏の創造

・駅周辺の再整備等に併せた都市機能の集積、人中心の空間への転換、鉄道沿線まちづくり
・新たなモビリティの活用による移動手段の充実 など

2) 郊外住宅地を多様な世代が住み、働き、交流するまちへ再編

・地域の核となる機能の導入やコワーキングスペース等の働く環境・場の創出
・新たなモビリティを活用した移動円滑化
・周辺の田園環境を活かした農との共存 など

3) 豊かな自然を活かしたまちづくり

・AIワケマド 交通等による交通アクセスの確保
・既存ストックを活用した働く場等の創出、先端技術を活用した生活支援サービスの提供
・豊かな自然を体験できるまちづくり、ワーケーションやマルチハビテーションの促進 など

戦略3

海・川・山や多様な地域資源を活かし、地域を活性化

1) 大阪広域ベイエリアのまちづくり

・多様な地域資源・ストックを活かしたまちづくり
・海上交通・自転車等による回遊性の向上 など

2) 河川空間を活かした魅力あるまちづくり

・舟運活性化や水辺空間の整備等にぎわい創出
・自転車等による回遊性の向上 など

3) 周辺山系の自然資源等を活用したまちづくり

・自然資源、歴史・文化資源、風景地、ビュースポット等のネットワーク化
・民間のアイデアやノウハウを活かした魅力向上 など

4) 多様な地域資源を活かした魅力あふれる都市空間の形成

・世界遺産など、歴史・文化遺産を巡る観光ネットワークの形成
・景観資源やアートを活かしたまちづくり など

支える

戦略4

人・モノ・情報の交流を促進

1) 交通インフラと連携したまちづくり

・道路ネットワークの機能強化と沿道まちづくり
・交通ネットワークの充実と沿線まちづくり
・空港・港湾の機能強化等

2) 豊かな都市空間を創造するまちづくり

・人中心の快適で魅力ある空間の創出
・自転車、水上交通、新たなモビリティ、エアモビリティを活用したまちづくり

戦略5

安全・安心でグリーンな社会を実現

1) 安全・安心なまちづくり

・人命を守る都市機能の強化
・供給処理施設の機能維持、再構築とまちづくりへの利活用

2) グリーン社会の実現に向けたまちづくり

・みどりを活かした魅力あふれるまちづくり
・脱炭素社会の実現に向けたまちづくり
・循環型社会の実現に向けたまちづくり

4. グランドデザインの推進に向けて

(1) まちづくりに関る様々な主体の役割及び推進体制

・府、市町村、民間等の役割、グランドデザイン推進体制 など

(2) グランドデザインの推進に向けた取組

- ・多様な主体の共有や参画を促し、まちづくりの機運醸成等を図る取組
- ・民間主導のまちづくりを推進するための環境整備
- ・市町村及び広域連携のまちづくりの推進
- ・まちづくりを育てるための取組
- ・グランドデザインの進捗管理

5. 取組ロードマップ

短期(2025年)、中期(2030年)、長期(2040~2050年)を目標とした、まちづくりの戦略に基づく主な取組のロードマップ

6. まちづくりマップ

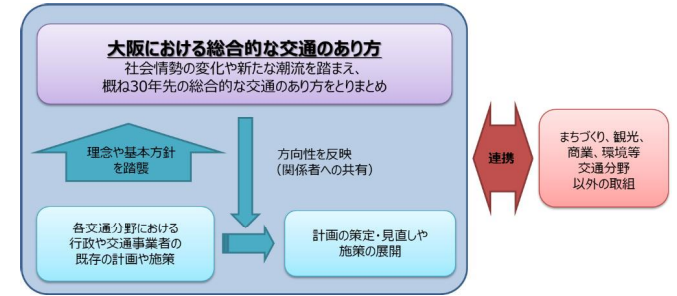
戦略と取組の方向性を踏まえた、大阪全体のまちづくりのイメージを示す図

大阪における総合的な交通のあり方について 概要版

はじめに(検討の目的)

- 大阪は、日本有数の陸海空の広域的な交通拠点や都市圏内の充実した交通ネットワークと、都市に近接した多様な自然・歴史・文化資源が人々の豊かな生活と経済発展を支えてきた都市
- スーパー・メガリージョン形成や大阪・関西万博を契機とした技術のイノベーションにより、大阪のさらなる成長が期待
- 今後、人口減少・高齢化社会における持続可能な交通、多様化する移動ニーズに対応した利便性の高い交通の実現に向けて、新たなテクノロジーを活用しながら、移動全体を通じた総合的な交通施策が必要

→ 様々な交通の関係者が、同じ方向を向いて連携した取組を進められるよう、大阪における概ね30年先の陸上、水上、航空の総合的な交通のあり方を示す



大阪における交通の方向性

<今後の交通に求められること>

快適な移動手段の確保

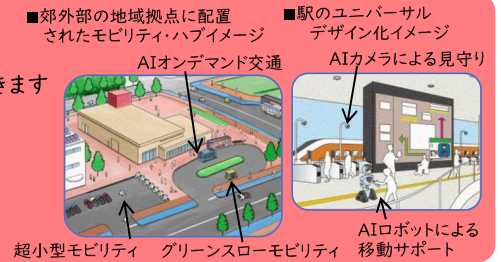
- ・大阪府民の生活を支える公共交通サービスの確保・維持
- ・公共交通の乗継改善
- ・誰もが利用しやすい環境整備
- ・高齢者の移動手段の確保
- ・多様な移動ニーズへの対応



<長期的な交通の方向性と望まれる姿の例>

方向性1 誰もがいつでも快適に移動できる交通

- 多様な移動ニーズに対応した最適な交通サービスの提供
あらゆる地域で、既存交通と新たなモビリティ、MaaSアプリのサポートで、ニーズに応じた移動ができます
- ユニバーサルデザインの充実
駅をはじめとする様々な交通施設において、AIカメラとAIロボットが自動通話しサポートすることで、障がい者や高齢者を含むすべての人が、安全・安心に移動できます
- ストレスフリーな移動をサポート
モビリティ・ハブで、多様な交通モードをスムーズに利用、乗継することができます



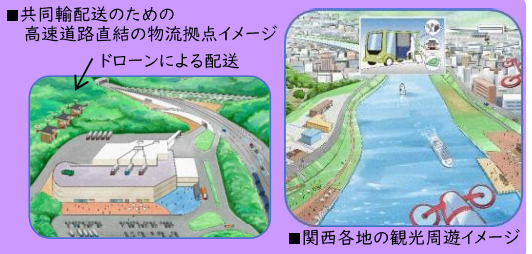
魅力ある大阪を支える交通

- ・大阪の港湾・空港・新幹線駅から国内外の多くの人・物と呼ば込
- ・多頻度小口配送への対応
- ・ドライバー不足への対応
- ・大阪・関西の周遊性向上



方向性2 国内外からヒト・モノを呼び込み、様々な交流機会を生み出す交通

- 大阪の成長に資する交通システムの強化
広域交通拠点の受入機能が強化され、様々な交通モードで日本各地へ移動・輸配送できます
- 物流の効率化
データを共有・連携した共同輸配送や、ドローン・ロボットの活用により、物流が効率化します
- 周遊や賑わいの創出
クルーズ船や空飛ぶクルマなどで、各地の魅力的な自然・歴史・文化資源を楽しく周遊できます



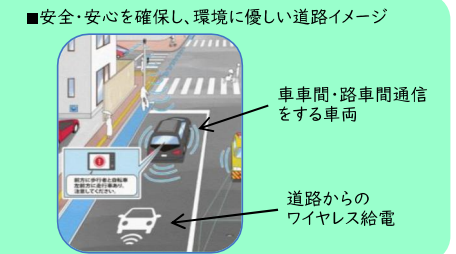
ヒトと環境に優しい交通

- ・2050年カーボンニュートラル実現
- ・道路や鉄道等の事故減少
- ・激甚化する自然災害への対応
- ・インフラ施設の老朽化への対応

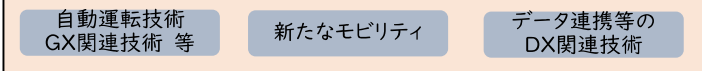


方向性3 安全・安心でグリーンな交通

- 2050カーボンニュートラルを実現する環境に優しい交通
船舶、航空、鉄道、自動車などの全ての交通分野で、次世代エネルギーが実装されます
- 事故ゼロをめざした交通利用者の安全・安心確保
自動運転技術や車車間・路車間通信技術により、渋滞や事故のない安全・安心な移動が実現します
- 交通インフラ施設の強靱化
道路通行不能時に、空飛ぶクルマや舟運などで代替交通手段を確保し、防災性が向上します



<新たな技術の開発・普及>



- ◆実現に向けて・・・以下のような視点を踏まえ、関係者が連携し、総合的な交通の取組を進めていくことが必要
- 新たな技術・デジタル技術の活用 : 通信インフラ等の利用環境や様々な情報を共有できる環境を整える 等
- 多様なプレイヤーの連携 : 行政、民間、府民がしっかりと話し協働していく 等